

第1回 県立高等学校改革懇談会 『保原・福島中央』

日時：令和元年 7月25日（木） 14：00～15：30
場所：福島中央高等学校 視聴覚室

福島県教育委員会

本日の進め方

1

県立高等学校前期実施計画策定の経緯

2

保原高校・福島中央高校の現在の状況

3

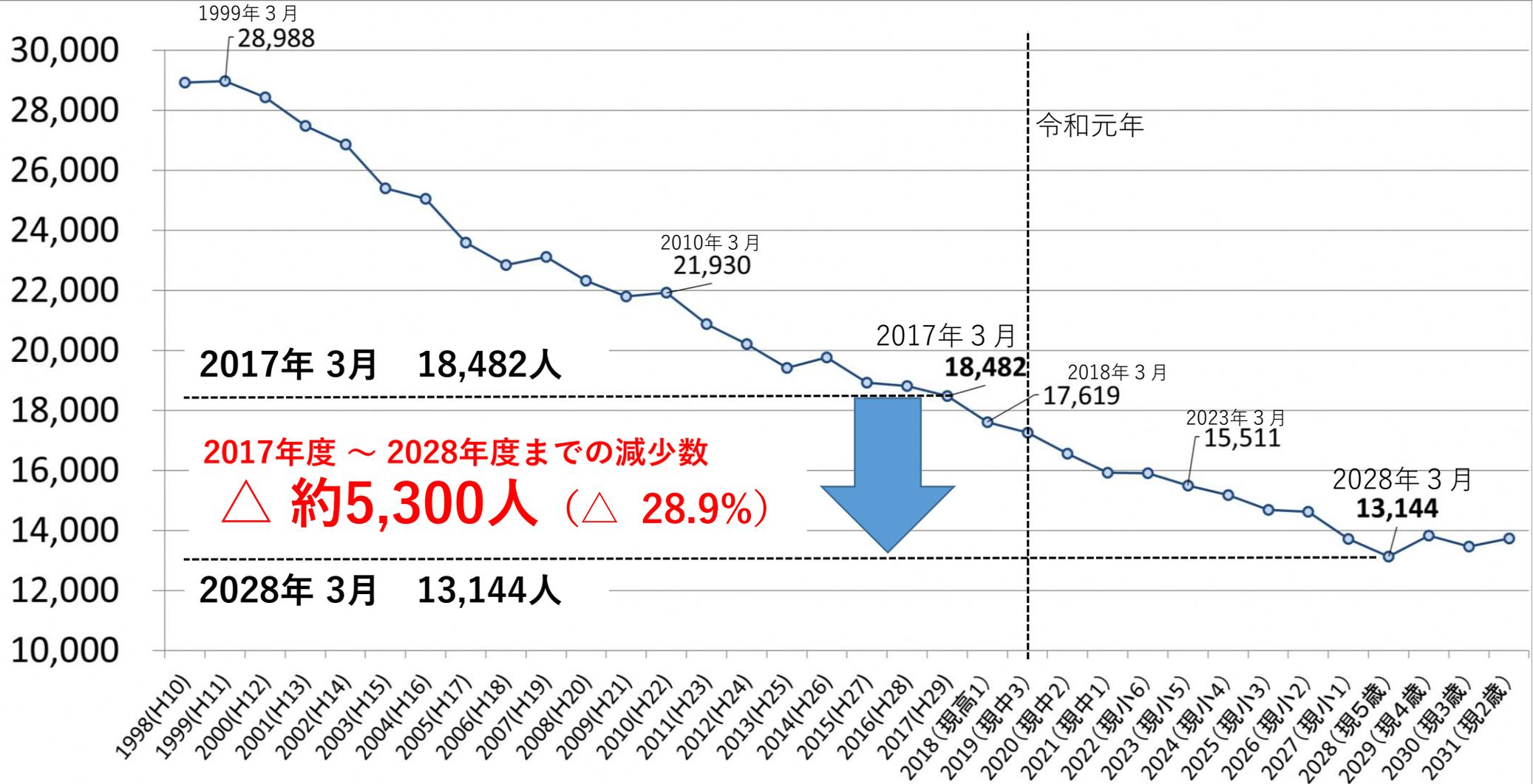
今後の再編整備について

1

県立高等学校改革前期実施計画 策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）



出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- 高等学校の小規模化（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の**学習ニーズの多様化**（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）

高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度 ～ 2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度 ～ 2028年度) 5年間

3 県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

- 基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進
- 基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上
- 基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化
- 基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

○ 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）

1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

○ 望ましい学校規模への再編整備の推進

同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

○ 多様な学習機会の充実

不登校等、様々な事情により基礎的な学力が十分に定着しなかった生徒に対して、**学び直しの機会確保の在り方について検討**する。

定時制高等学校については、様々な入学動機や学習歴を持つ生徒の学び直しとしての役割も踏まえ、志願者の動向や地域の実状等に配慮しながら、**地区ごとの配置や再編も含めて検討**する。

○ 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置

中高一貫教育校、**定時制高等学校**、通信制高等学校、その他生徒の学習ニーズに応じた高等学校については、**全県的な視野から配置**する。

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

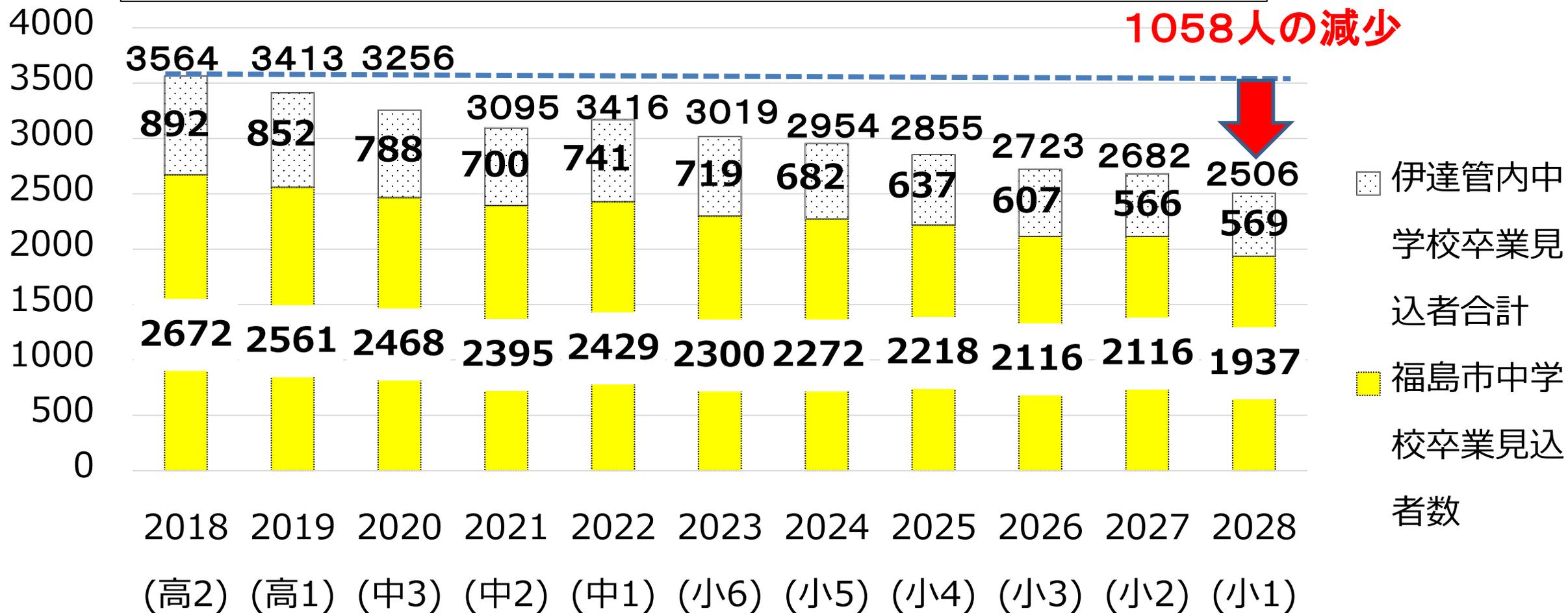
定時制・通信制高校

2

保原高校・福島中央高校の現在の状況

4 地区の少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

福島市・伊達管内の中学校卒業見込み者数の推移



5 学校の沿革概要等

保原高校(定時制)

○ 沿革（定時制創立71周年）

昭和23年 4月 福島県立保原高等学校となる

昭和28年 4月 定時制(夜間)に普通科1学級を
創設

平成25年11月 定時制創立65周年・夜間部創設
60周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）

定時制 普通科 1学年1学級 生徒数64名

○ 併設する高校： 保原高校（全日制）

普通科 4クラス(160名) 商業科 1クラス(40名)

※ 前期実施計画における再編整備の見通し

2023年 梁川高校と統合を想定（6クラス）

福島中央高校

○ 沿革（創立71周年）

昭和23年 4月 福島県立福島第二高等学校開校

昭和44年 4月 福島第二高等学校と福島高等学校
(通信制)が統合。

福島県立福島中央校等学校となる。

平成30年10月 創立70周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）

定時制 普通科 1学年1学級 生徒数48名

○ 併設する高校： 福島南高校

文理科 2クラス(80名)

国際文化科 1クラス(40名)

情報会計科 1クラス(40名)

6 進路状況 (過去3年間)

学校要覧より

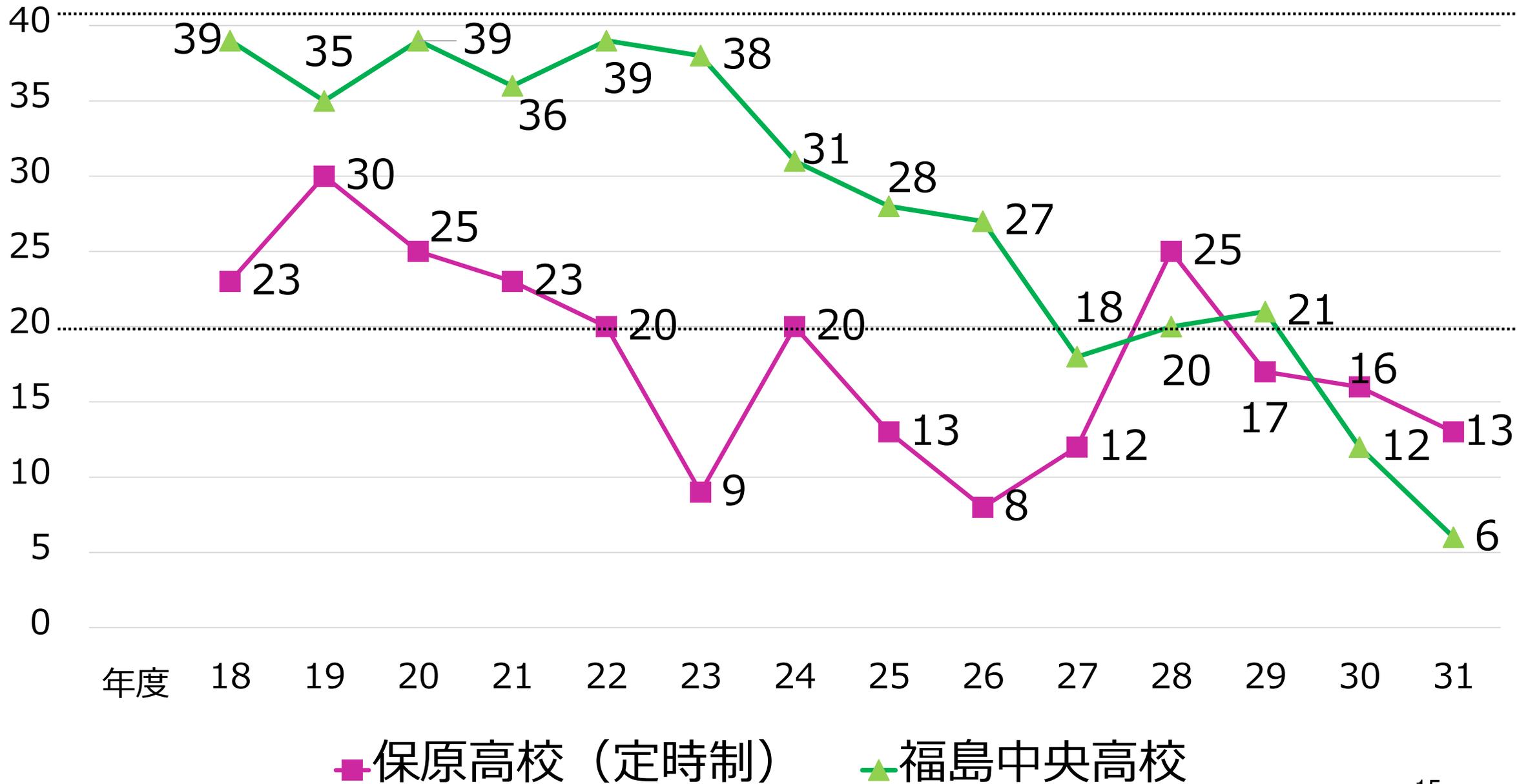
【保原高校 (定時制)】

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	合計
卒業年度						
30	0	0	0	1	7	8
29	1	2	0	0	3	6
28	0	1	3	1	9	14

【福島中央高校】

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	合計
卒業年度						
30	0	0	1	2	9	12
29	0	0	1	4	10	15
28	1	0	4	5	8	18

7 入学者数の推移



8 入学状況（1）

保原高校(定時制)													
中学校名	桃陵	松陽	梁川	霊山	醸芳	伊達	福島三	北信	川俣	月舘	(県内) その他	(県外) その他	合計
1年	7		1	1		3	1						13
2年	5	1	6	2	1	1		1					17
3年	1		6		2	2	1		1	1	2		16
4年	5		5	3		1		2			1	1	18
計	18	1	18	6	3	7	2	3	1	1	3	1	64

8 入学状況（2）

福島中央高校

中学校名	福島一	福島二	福島三	福島四	岳陽	蓬萊	渡利	清水	信陵	北信	西信	信夫	野田	二本松二	梁川	(県内) その他	(県外) その他	合計
1年	1		1		1	1	1										1	6
2年		1			1		2	1	1	3			2			1	1	13
3年	2	1		1			3	1	1	2	1	2						14
4年	1		3	1	1	2		1		2		2		1	1			15
計	4	2	4	2	3	3	6	3	2	7	1	4	2	1	1	1	2	48

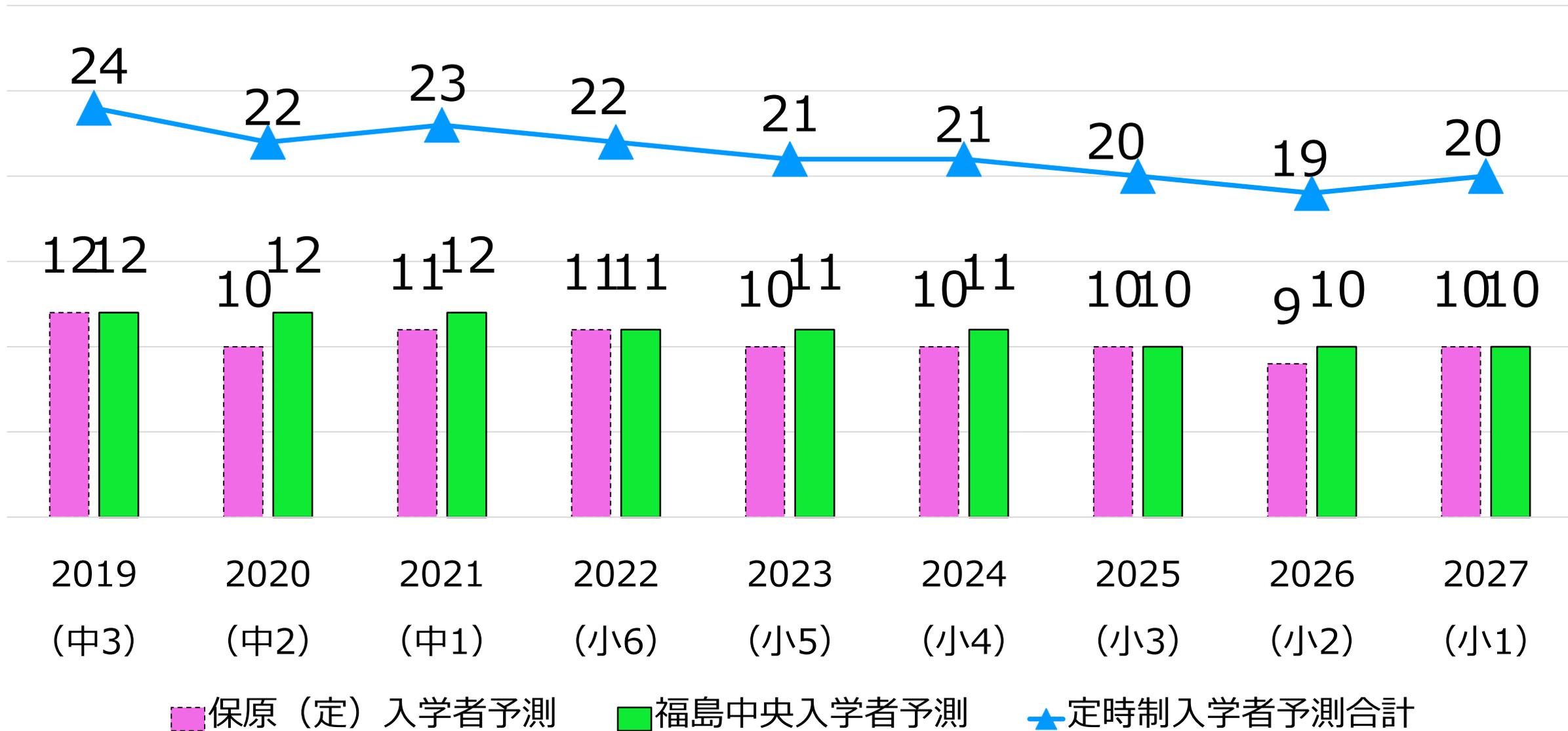
9 各校の正社員の割合

	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
保原 (定時制)	3.3%	3.6%	3.3%	3.1%
福島中央	1.3%	1.4%	0%	0%

※ 全国の定時制高校に通う生徒のうち、正社員として働いている割合
(2017年度文部科学省委託の調査による)

1982 (S57)	1994 (H6)	2016 (H28)
68.4%	34.7%	2.2%

10 保原（定）・福島中央 入学者予測



3

今後の再編整備について

1 1 統合校の方向性

保原高校

○ 定時制・普通科1学級
(定員40名)

所在地：伊達市保原町

・伊達地区の勤労青年の学習機会
の場として地域人材の育成に寄与。

福島中央高校

○ 定時制・普通科1学級
(定員40名)

所在地：福島市渡利

・福島市内の勤労青年の学習機会
の場として地域人材の育成に寄与。

様々な動機や学習歴を持つ生徒が入学

2022年4月開校予定 保原・福島中央統合校（仮称）

県北地区の普通科の定時制高等学校として、生徒のペースに合わせて学べる
生徒の学び直しの役割を備えた学校

定時制 普通科 1学級 (定員40名)
場所：福島中央高校

1 2 統合校のイメージ

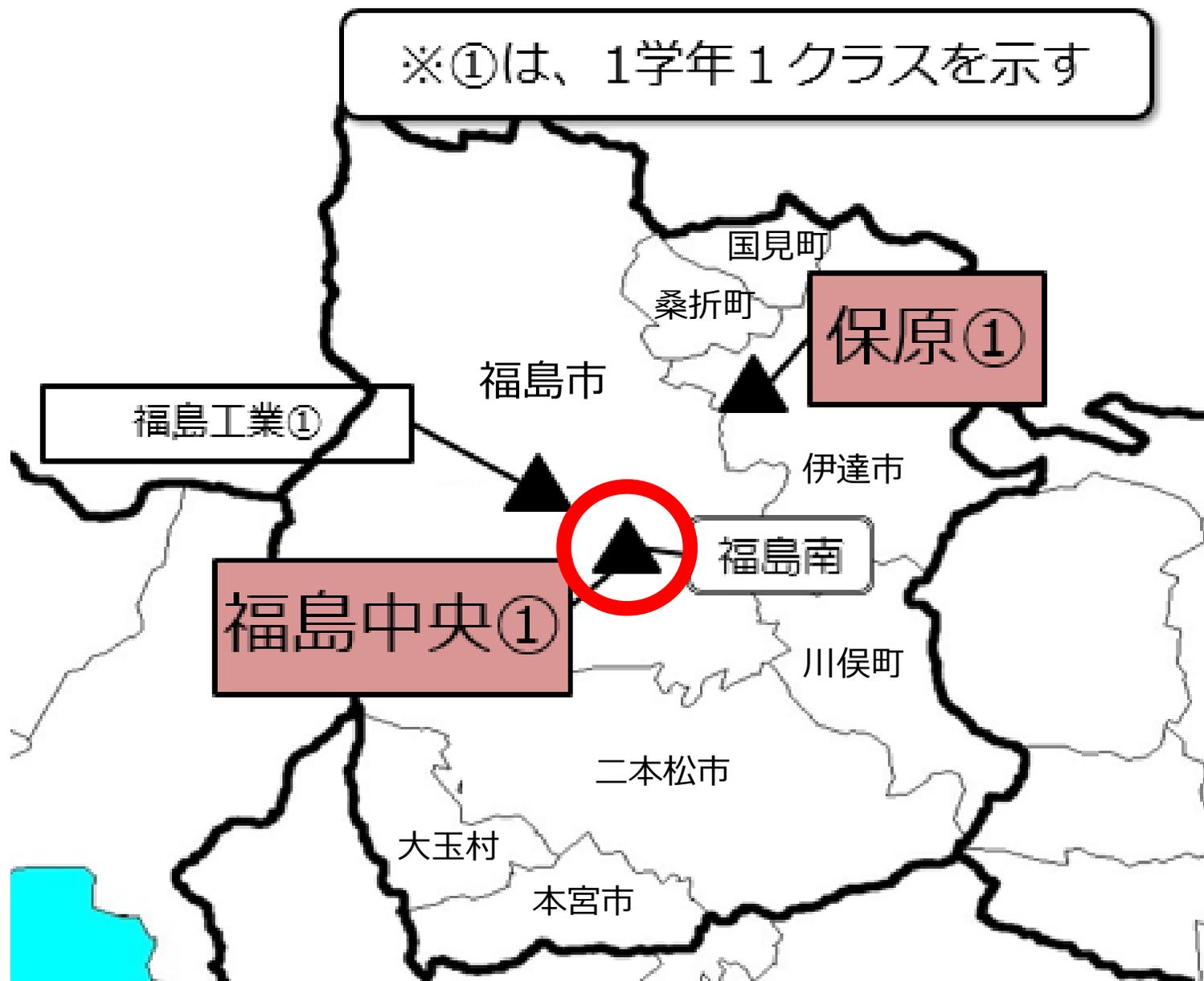
保原・福島中央 統合校（仮）

ビジョン《将来の姿》

- 夕間部の導入により、学びやすい環境を整備
- 丁寧な学習指導や教育相談体制を充実
- 集団活動の中で社会性を育成し、進路意識を高めるキャリア教育を推進

- ・ 夕間部定時制という新しいタイプの定時制課程の特色を生かした、生徒の生活パターンや多様な学習ニーズに応える教育活動やキャリア教育の実践を図る。
- ・ 保原定時制と福島中央の取組を継承し、わかりやすい授業の展開や個別指導などのきめ細かな学習指導により、生徒の基礎学力の定着を図る。
- ・ キャリア教育や教育相談の充実、学校行事の活性化等により、生徒の社会性やコミュニケーション能力を向上させ、人間的成長を支援する。

1 3 県北地区通学可能範囲



14 検討する特色化の例

生徒に寄り添った
丁寧な学習指導や
相談体制

夕間部の導入を検討

生徒の学習ニーズに
合わせた柔軟な学び

進路意識を高める
キャリア教育

一定規模の集団の中で
人間性・社会性を育成

1 5 保原（定）・福島中央 現在の時間割（夜間部）

保原（定時制）

給食	16 : 40～17 : 20
ホームルーム	17 : 30～17 : 35
1校時	17 : 35～18 : 20
2校時	18 : 30～19 : 15
3校時	19 : 20～20 : 05
4校時	20 : 10～20 : 55
ホームルーム	20 : 55～21 : 00

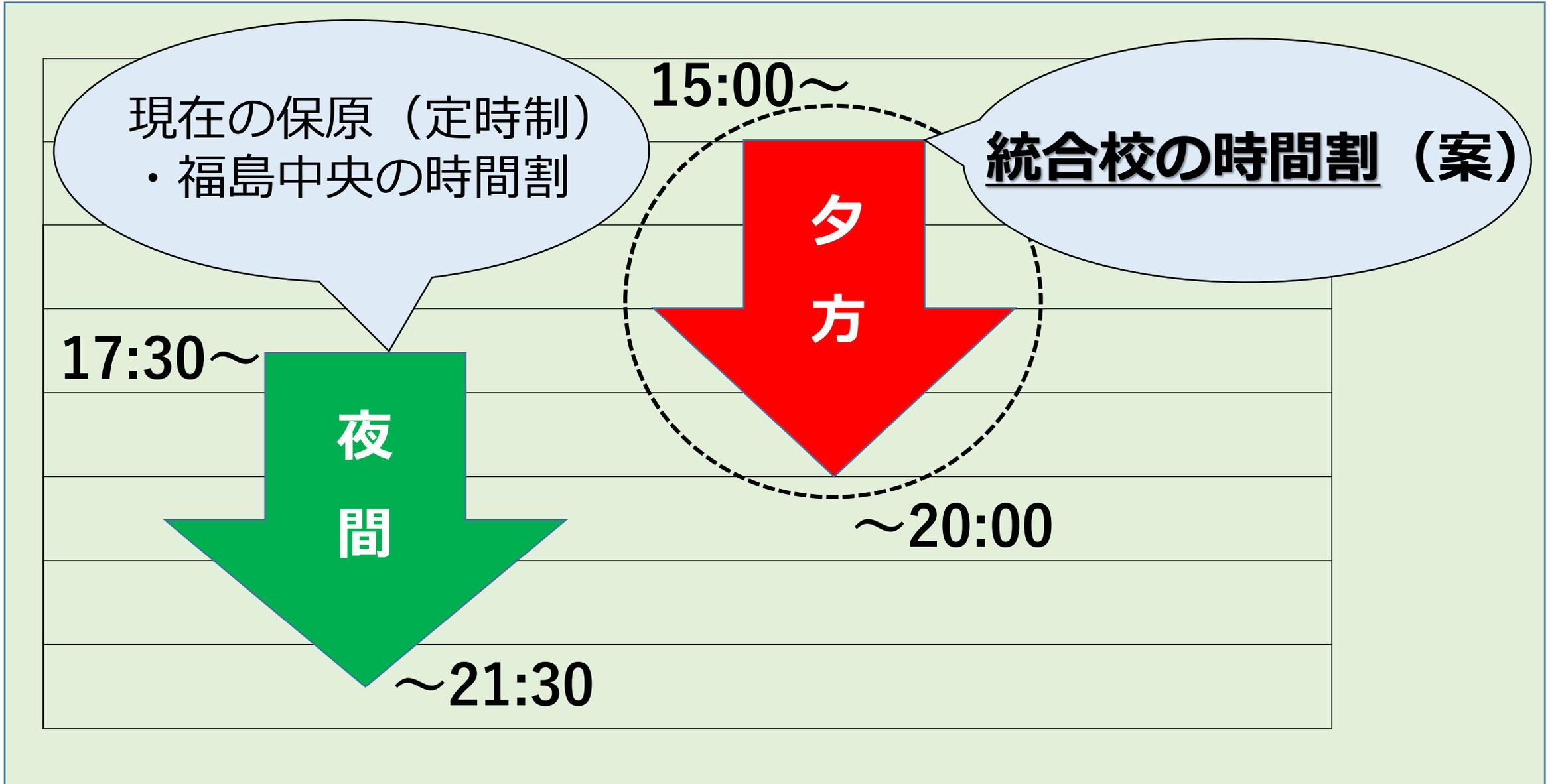
福島中央（月～木）

SHR	17 : 25～17 : 30
1校時	17 : 30～18 : 15
給食	18 : 15～18 : 40
2校時	18 : 40～19 : 25
3校時	19 : 30～20 : 15
4校時	20 : 20～21 : 05
21 : 30完全下校	

福島中央 短縮（金）

SHR	17 : 25～17 : 30
1校時	17 : 30～18 : 10
給食	18 : 10～18 : 35
2校時	18 : 35～19 : 15
3校時	19 : 20～20 : 00
4校時	20 : 05～20 : 45
清掃	20 : 45～21 : 05
21 : 30完全下校	

16 夕間定時制の時間割イメージ



17 今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 年度内

(以後、必要に応じて開催)

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）